




2023年3月期 第2四半期 決算説明

(2022年4月1日～2022年9月30日)



2022年11月7日
エバラ食品工業株式会社

1. 2023年3月期 第2四半期決算報告 2023年3月期 業績見通し

■ 取締役 半田 正之

2. Unique 2023の進捗に関して

■ 代表取締役社長 森村 剛士

注記がない限り、表記の数値はすべて連結ベースです。

本資料の金額は単位未満切捨で表示しております。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。



2023年3月期 第2四半期 決算報告

決算のポイント

食品事業は業務用商品の貢献もあり堅調に推移するも、その他事業の前期事業譲渡による影響もあり、前年同期比で減収。営業利益も原材料高騰の影響等により減益

売上高	21,637百万円	前年同期比 ▲0.2%	計画比 ▲0.1%
営業利益	1,741百万円	前年同期比 ▲0.3%	計画比 +35.0%

- 家庭用商品における肉まわり調味料が精肉価格の上昇もあり、低調に推移
- 『プチッと調味料』の貢献もあり、家庭用の鍋物調味料群、その他群は堅調に推移
- 物流事業は既存顧客との取引量を増やしたことにより、売上が伸長

売上原価	13,096百万円	売上原価率	60.5%	(前年同期比 +0.2pt)
販管費	6,799百万円	販管費率	31.4%	(前年同期比 ▲0.2pt)

- 売上原価は原材料高騰や水道光熱費上昇の影響を受ける
- 販管費率は賞与や宣伝費の減少等が影響

連結業績

単位：百万円

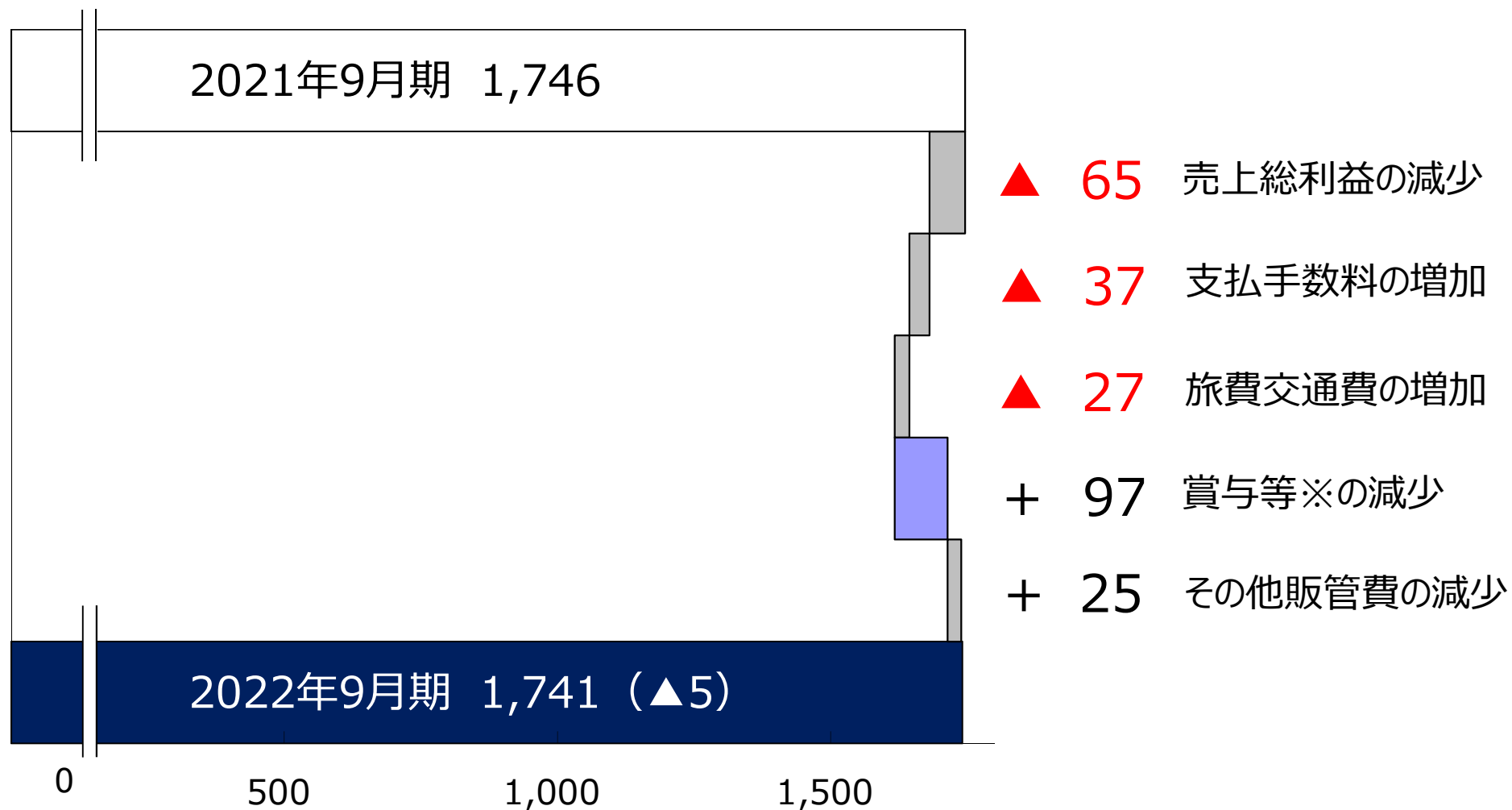
**前年同期比減収、利益面は営業利益ベースでは減益、経常利益、純利益では増益
計画比は、売上高は未達となるも、利益は計画を大きく上回る**

(百万円)	2021.9	2022.9	2021.9 対比		2022.9 計画対比 (2022年5月12日)			2023.3 計画進捗 (2022年5月12日)		
			増減	増減率	計画	増減	増減率	計画	未達額	進捗率
売上高	21,671	21,637	▲34	▲0.2%	21,665	▲27	▲0.1%	43,240	21,603	50.0%
売上原価	13,064 60.3%	13,096 60.5%	31 +0.2pt	0.2% -	13,217 61.0%	▲121 ▲0.5pt	▲0.9%	26,915 62.2%	13,819	48.7%
売上総利益	8,607 39.7%	8,541 39.5%	▲65 ▲0.2pt	▲0.8% -	8,447 39.0%	93 +0.5pt	1.1%	16,325 37.8%	7,783	52.3%
販管費	6,860 31.7%	6,799 31.4%	▲60 ▲0.2pt	▲0.9% -	7,157 33.0%	▲358 ▲1.6pt	▲5.0%	14,118 32.7%	7,318	48.2%
営業利益	1,746 8.1%	1,741 8.0%	▲5 ▲0.0pt	▲0.3% -	1,289 6.0%	451 +2.1pt	35.0%	2,206 5.1%	465	78.9%
経常利益	1,804 8.3%	1,904 8.8%	100 +0.5pt	5.6% -	1,335 6.2%	569 +2.6pt	42.6%	2,296 5.3%	391	82.9%
四半期(当期) 純利益	1,290 6.0%	1,296 6.0%	6 +0.0pt	0.5% -	915 4.2%	381 +1.8pt	41.7%	1,587 3.7%	291	81.6%

営業利益 増減分析

単位：百万円

■ 増益要因 ■ 減益要因

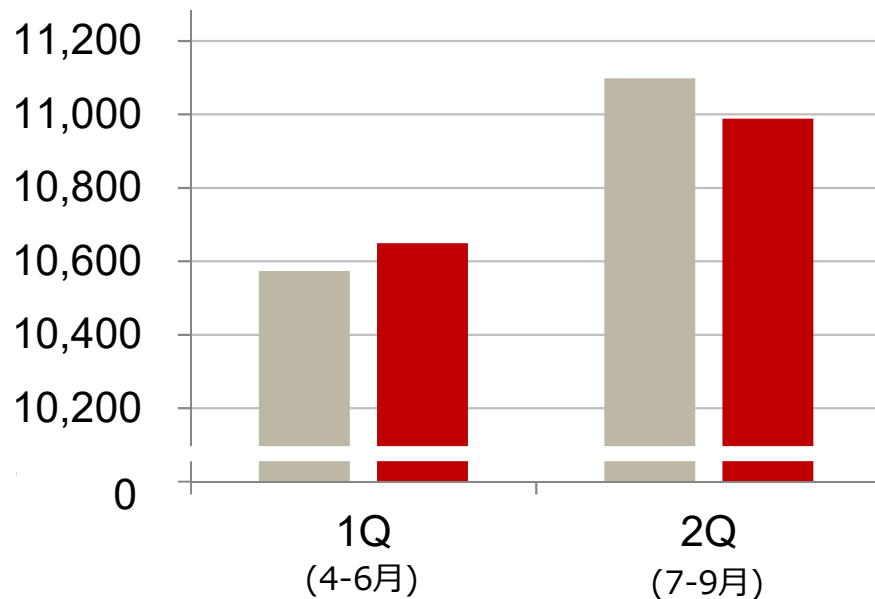


(※) 賞与等には、賞与、賞与引当金繰入額が含まれる

売上高・営業利益 四半期推移

(百万円)

売上高



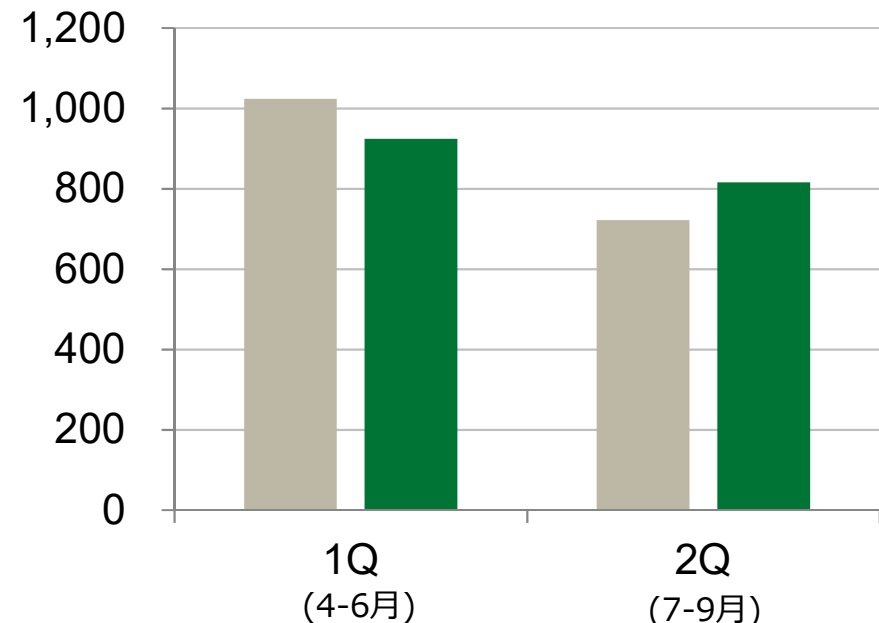
2022.9	10,649	10,988
2021.9	10,573	11,098
増減	76	▲110
増減率	0.7%	▲1.0%

(百万円)


■ 前期

■ 当期

営業利益



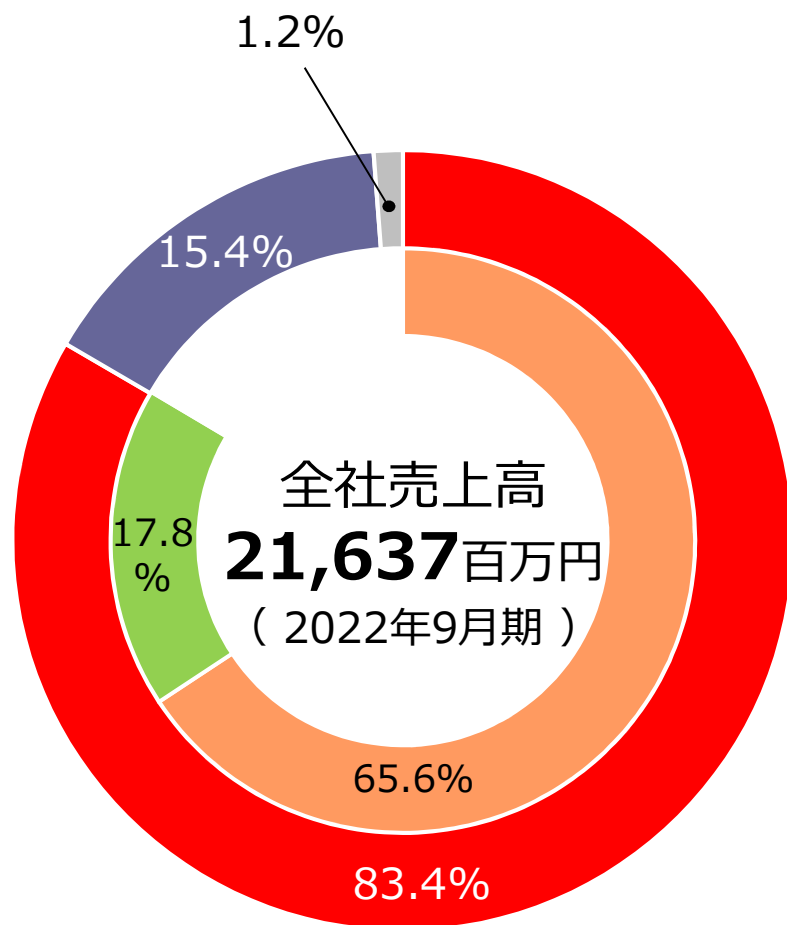
2022.9	924	816
2021.9	1,024	722
増減	▲99	94
増減率	▲9.7%	13.1%



2023年3月期 第2四半期 決算報告

セグメント・製品区分別 売上高

セグメント・製品区分別 売上高



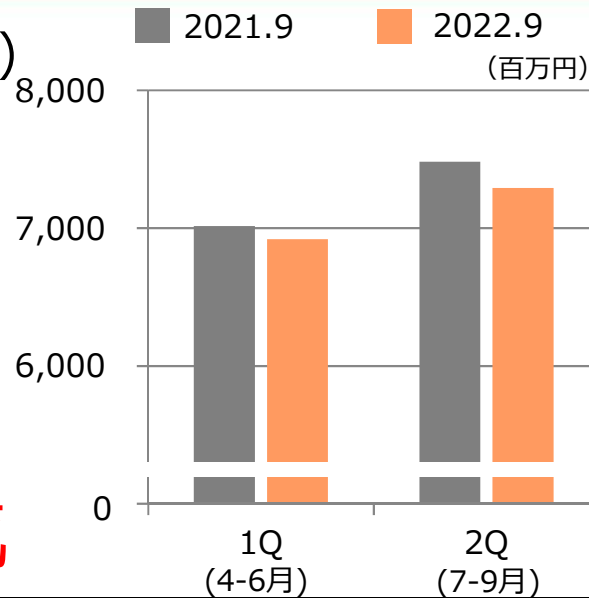
食品事業	18,054百万円 (前年同期比1.2%増)
家庭用商品	14,209百万円 (前年同期比2.0%減)
業務用商品	3,845百万円 (前年同期比14.9%増)
物流事業	3,329百万円 (前年同期比3.0%増)
その他事業	254百万円 (前年同期比57.6%減)

セグメント・製品区分別 売上高

食品事業（家庭用商品）

(百万円)	第2四半期 累計売上高
2022.9	14,209
2021.9	14,495
前年同期比	

2.0%減



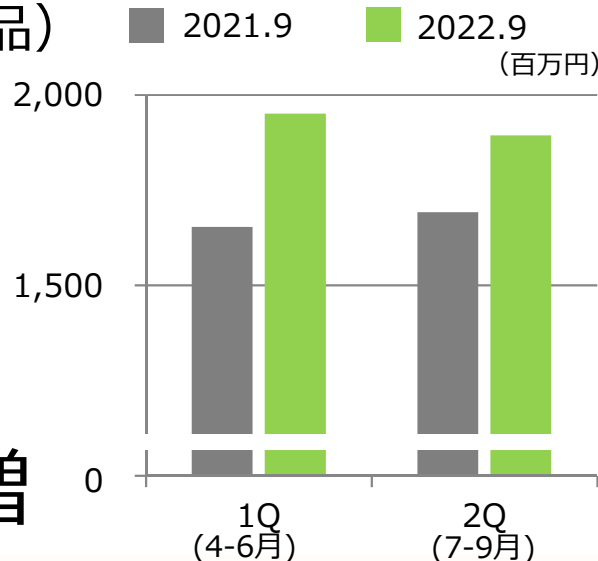
精肉価格の上昇等により 肉まわり調味料の販売が低調に推移

- ・鍋物調味料は『プチッと鍋』や新商品である『フライパンで焼肉鍋』が貢献し、前年同期比で増収
- ・その他群である『プチッとうどん』が具入りタイプを中心に売上を伸長

食品事業（業務用商品）


(百万円)	第2四半期 累計売上高
2022.9	3,845
2021.9	3,345
前年同期比	

14.9%増



外食産業の来店客数の回復もあり、販売は回復傾向

- ・外食及び中食産業向けに展開した『ヤンニョムチキンのたれ』が貢献
- ・海外事業において荏原上海がロックダウンの影響を受けるも、他拠点にて新規顧客の開拓を進めたほか、為替の後押しもあり、前期比で増収

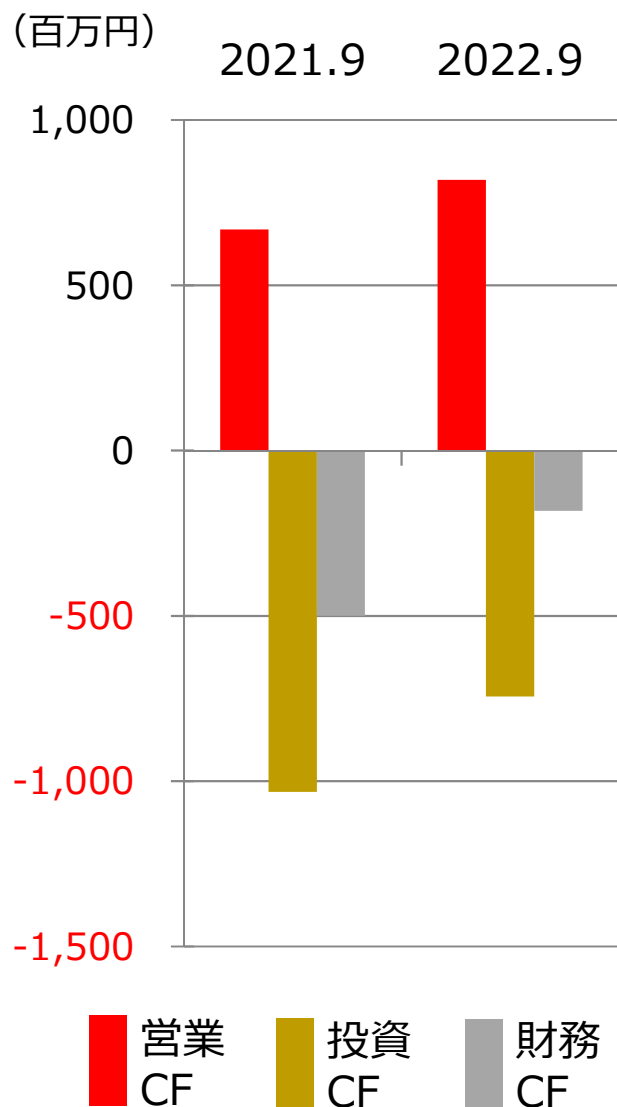


2023年3月期 第2四半期 決算報告

キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー

単位：百万円



	2021.9	2022.9	増減
営業キャッシュ・フロー	668	818	150
投資キャッシュ・フロー	▲1,033	▲744	289
フリーキャッシュ・フロー	▲365	74	439
財務キャッシュ・フロー	▲500	▲183	316
現金及び現金同等物の増加額 (▲は減少額)	▲864	▲2	861
現金及び現金同等物の期末残高	14,634	15,762	1,128

2022.9		
営業CF	税金等調整前四半期純利益	1,902百万円
	減価償却費	516百万円
	売上債権の増加額	▲1,284百万円
投資CF	有形固定資産の取得	▲612百万円
財務CF	配当金の支払	▲207百万円



2023年3月期 業績見通し

2023年3月期 業績修正のポイント

- 第2四半期までの業績を加味して上方修正
 - 連結売上高は期首計画から約1億円増加
 - 売上総利益は期首計画から2億円強減少
 - 原材料・燃料費高騰に伴う売上原価は約4億円の増加
 - 販管費は期首計画から約0.5億円減少
 - コロナウイルスの影響の長期化により試食販売費等の計画値を減少
- ※期首時点では、コロナウイルス感染拡大における影響は当事業年度半ば以降の収束を想定

2023年3月期 業績見通し

単位：百万円

	上期実績	下期計画値	年間計画値	前期実績	増減率
売上高	21,637	21,662	43,300	43,345	▲0.1%
営業利益	1,741	758	2,500	3,348	▲25.3%
経常利益	1,904	795	2,700	3,666	▲26.4%
当期純利益	1,296	503	1,800	2,704	▲33.4%

	2023年3月期 下期計画値 (2022年11月7日開示)	2023年3月期 下期計画値 (2022年5月12日/期首開示)	期首開示対比	
			差異	増減率
売上高	21,662	21,575	86	0.4%
営業利益	758	917	▲158	▲17.3%
経常利益	795	961	▲166	▲17.3%
下期純利益	503	672	▲169	▲25.1%

1. 2023年3月期 第2四半期決算報告
2023年3月期 業績見通し

■ 取締役 半田 正之

2. Unique 2023の進捗に関して

■ 代表取締役社長 森村 剛士

中期経営計画 コア事業による収益強化 と 戦略事業の基盤確立

Unique 2023

(2019年4月～2024年3月)

～エバラらしさの追究～

■ 外部環境の変化

国内市場縮小・競争激化

ニーズ・価値観の多様化(変化)

コロナウイルス感染長期化/原材料や資源の高騰/為替の急変動

基本戦略

I. コア事業による収益強化 と 戦略事業の基盤確立

コア事業

食品事業(家庭用)

物流事業

広告宣伝事業

人材派遣事業

バリューチェーンの機能強化と新たな価値創造を通じた収益力強化

戦略事業

食品事業(業務用)

食品事業(海外)

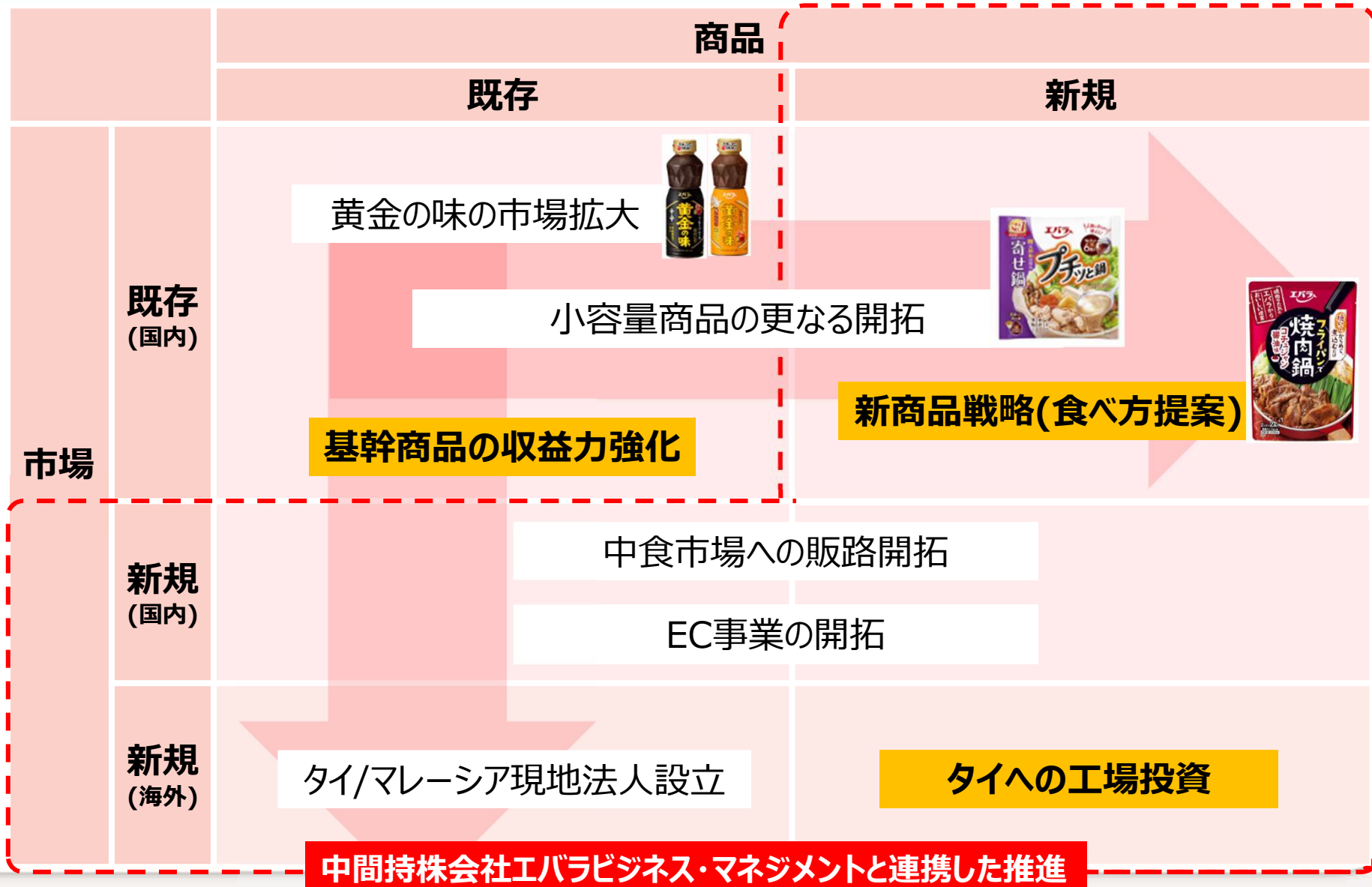
食品事業(コンビニエンスストア)

食品事業(EC等)

新たな価値・市場機会の獲得にむけたエリア・チャネルの拡大

当社の成長戦略

コア事業による収益強化と戦略事業の基盤確立



新価値創造 / 収益力強化

※金額は収益認識適用後の売上高(2022年3月期実績)

■ 新価値創造(新商品開発)



40億円 ※

ポーション調味料

- ✓ 人数に合わせて使える利便性
- ✓ 『Puchi-tendon』で具入りタイプを展開



10億円 ※

なべしゃぶ

- ✓ つけだれいらずのお手軽メニュー



2022年
8月発売

フライパンで焼肉鍋

- ✓ 焼肉と鍋の美味しいとこ取り

■ 拡販費率の改善(販売コストの低減)

- ✓ 価値訴求を軸とした販売プロモーションにより、拡販費を抑制
- ✓ 売上(収益認識適用後)・利益それぞれに約1.5億円の貢献

戦略事業の基盤確立 / タイへの工場設立

- ✓ 東南アジアに加え、将来は欧州への販売も視野
- ✓ 現地のニーズにスピーディーに適合するため多品種対応のラインを想定
- ✓ 拡張性があり、将来的な事業の状況変化に柔軟に適用可能

■工場データ

所在地：タイ王国 チョンブリ

投資額：約26億円

建築面積：4,957.17m²（予定）

稼動予定日：2024年6月



“エバラらしく＆面白い” ブランドへの成長

モノづくり

組織再編

- ✓ 研究開発機能とマーケティング機能を統合
- ✓ 新価値創造を主導する中間持株会社エバラビジネス・マネジメントを設立

ヒトづくり

人事制度改革

- ✓ 挑戦し、成果を上げる人が報われる制度に
- ✓ 人材育成の強化に向け、ポジション別に必要なスキルを見える化

社内提案制度(ACE)

- ✓ 新事業開発と新商品開発の2種の制度を運用
- ✓ エバラの未来を担う経営人材の育成機会に

社内提案制度(ACE)の由来

- Action** : 冒険する行動力
- Challenge** : 反論するチャレンジ精神
- Education** : 失敗からの学び

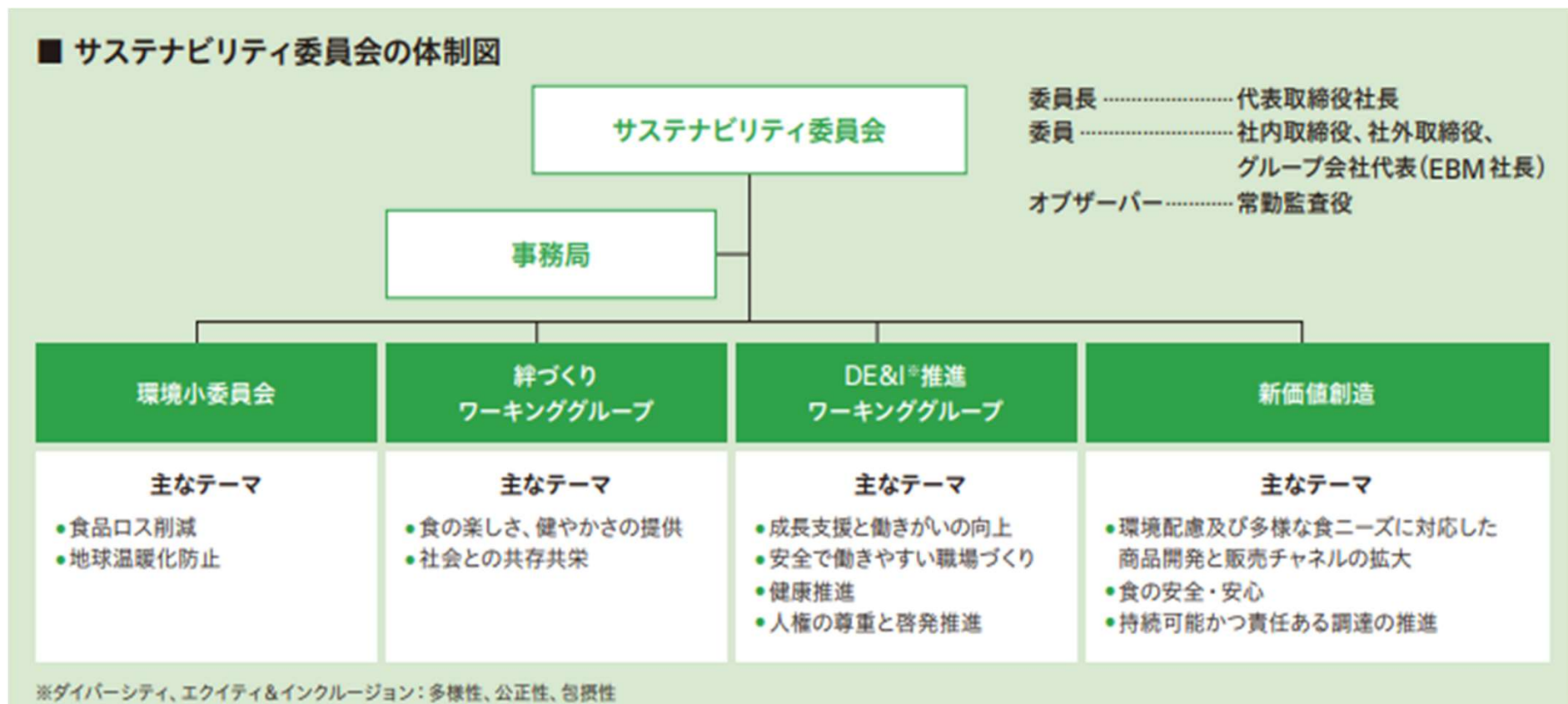
サステナビリティの推進

- ✓ サステナビリティ委員会設立、4つのテーマに応じたワーキンググループを構築
- ✓ マテリアリティの再特定を行い、2030年度までのKPIを新たに策定

環境	・ 食品ロス削減/地球温暖化防止
絆づくり	・ 食の楽しさ、健やかさの提供/社会との共存共栄
DE&I※	・ 成長支援と働きがいの向上/安全で働きやすい職場づくり ・ 健康推進 / 人権の尊重と啓発推進
新価値創造	・ 環境配慮及び多様な食ニーズに対応した消費開発と販売チャネルの拡大 ・ 持続可能かつ責任ある調達の推進 等

サステナビリティの推進

- ✓ サステナビリティ委員会設立、4つのテーマに応じたワーキンググループを構築
- ✓ マテリアリティの再特定を行い、2030年度までのKPIを新たに策定



<参考資料> 統合報告書 ~VALUE REPORT 2022~



エバラ食品工業株式会社
証券コード：2819



パソコン・タブレット・スマートフォンからアクセス

エバラ 統合報告 検索

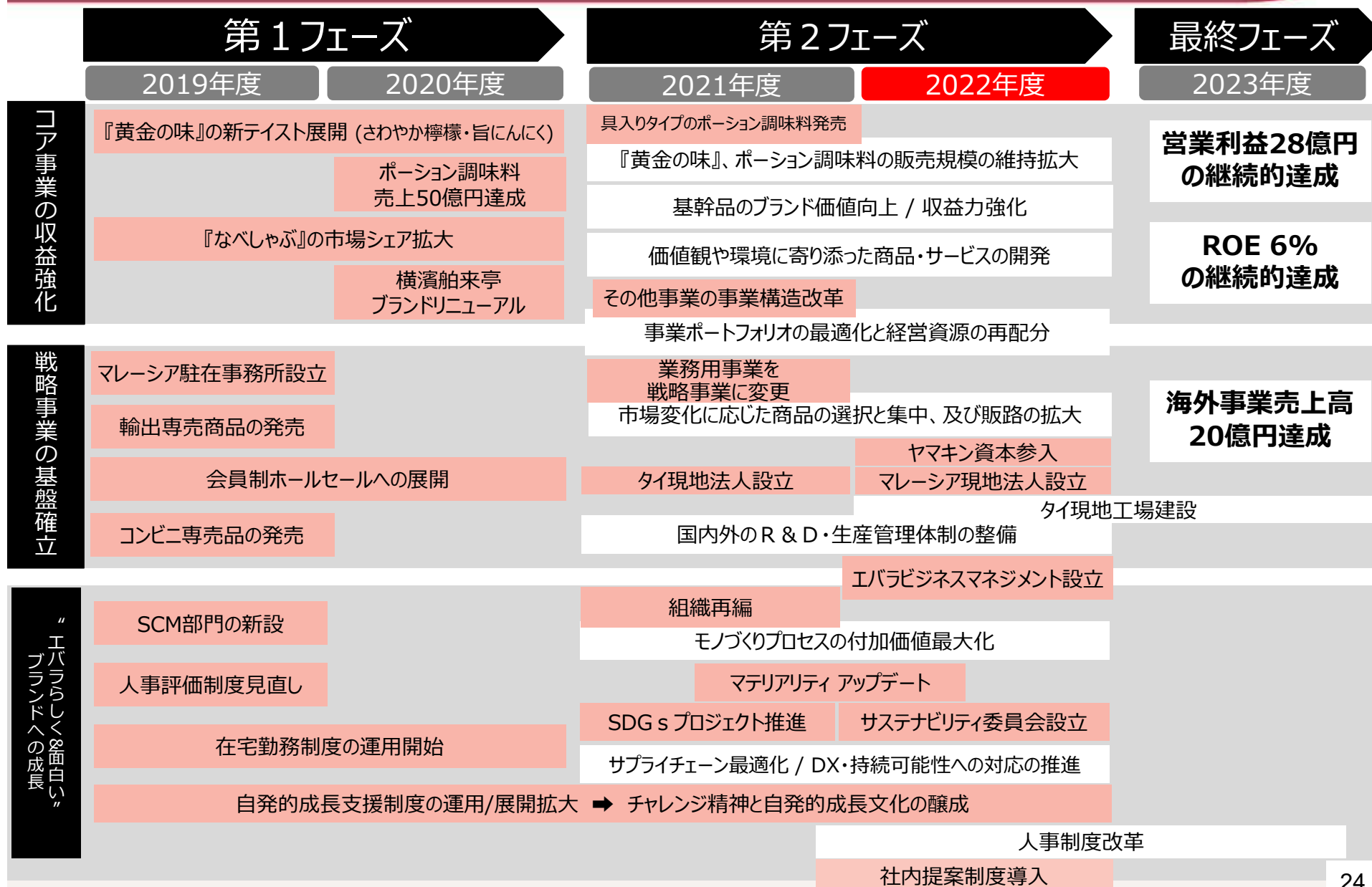
<https://www.ebarafoods.com/company/ir/library/integrated/>



特集
2030年にありたい姿
「食」をつなぐことで
「食べる」をもっと面白く！
食の価値をつなぐ食育教室
2023年10月開催の食育教室の様子を、食の価値をつなぐ食育教室として紹介いたします。食育教室を通じて、食の価値をつなぐ食育教室として紹介いたします。食育教室を通じて、食の価値をつなぐ食育教室として紹介いたします。

Unique 2023の進捗

■ 実行済の項目



～ 参考資料 ～

セグメント・製品区分別 売上高

単位：百万円

事業名称及び商品群名	2021.9 (2021年4月~2021年9月)	2022.9 (2022年4月~2022年9月)	増減	増減率
食品事業	17,841	18,054	212	1.2%
家庭用商品	14,495	14,209	▲286	▲2.0%
肉まわり調味料群	7,193	6,771	▲422	▲5.9%
鍋物調味料群	3,706	3,725	18	0.5%
野菜まわり調味料群	1,970	1,936	▲34	▲1.8%
その他群	1,624	1,776	152	9.4%
業務用商品	3,345	3,845	499	14.9%
肉まわり調味料群	1,226	1,416	189	15.4%
スープ群	1,205	1,369	164	13.6%
その他群	913	1,059	145	16.0%
物流事業	3,232	3,329	97	3.0%
その他事業 (広告宣伝事業・人材派遣事業)	598	254	▲344	▲57.6%
合計	21,671	21,637	▲34	▲0.2%

セグメント・製品区分別 売上高

食品事業（家庭用商品）

● 肉まわり調味料群

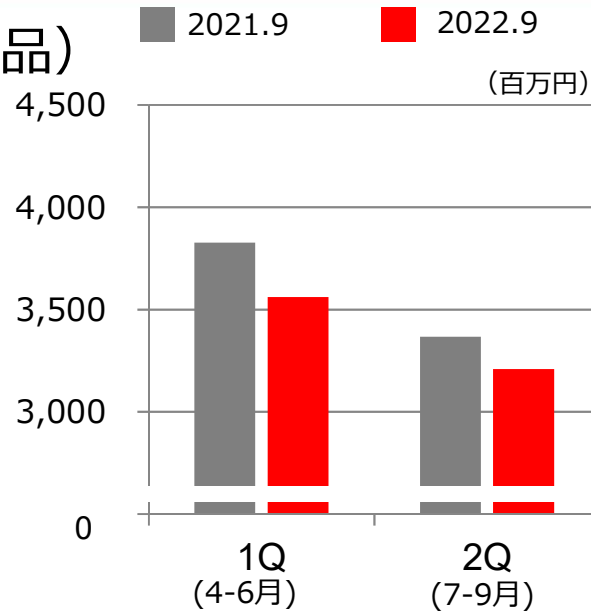


31.3%

売上構成比

(百万円)
2021.9
2022.9
増減

通期売上高	
2021.9	7,193
2022.9	6,771
増減	▲5.9%



精肉価格高騰や各社商品の相次ぐ値上げに伴う消費マインドの低下等が影響

- ・『黄金の味』『焼肉のたれ』『おろしのたれ』等の売上が前年同期水準を下回る



● 鍋物調味料群

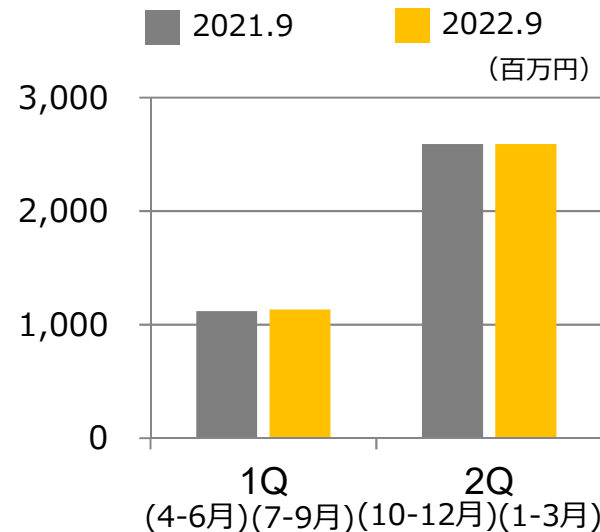


17.2%

売上構成比

(百万円)
2021.9
2022.9
増減

通期売上高	
2021.9	3,706
2022.9	3,725
増減	0.5%



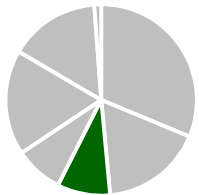
新商品である『フライパンで焼肉鍋』が新しい食べ方提案を訴求し、売上に貢献



セグメント・製品区分別 売上高

食品事業（家庭用商品）

● 野菜まわり調味料群



8.9%

売上構成比

(百万円)

2021.9
2022.9
増減

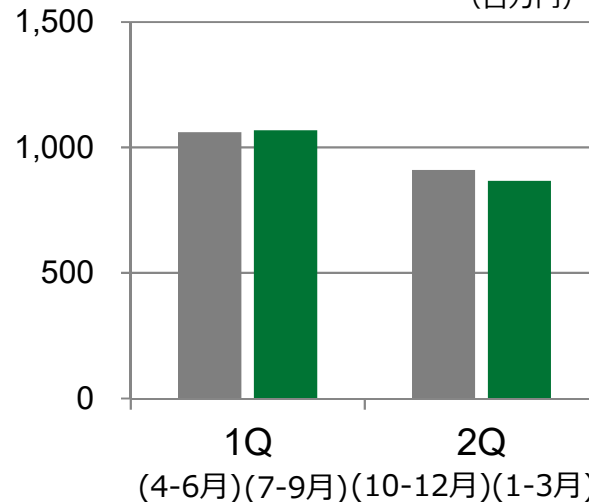
第2四半期
累計売上高

1,970
1,936
▲1.8%

■ 2021.9

■ 2022.9

(百万円)



『浅漬けの素』が前年同期の
販売水準を下回る



● その他群



8.2%

売上構成比

(百万円)

2021.9
2022.9
増減

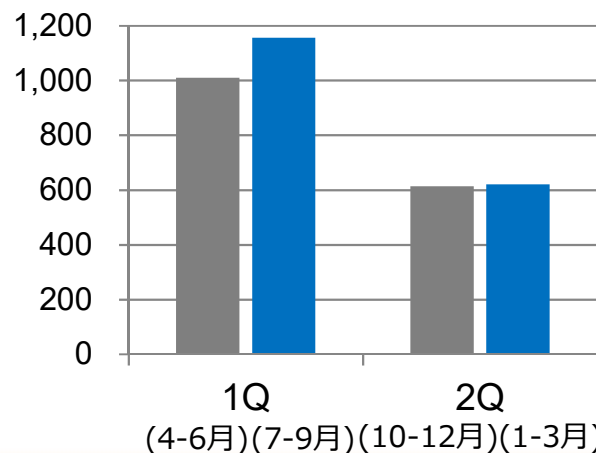
第2四半期
累計売上高

1,624
1,776
+9.4%

■ 2021.9

■ 2022.9

(百万円)



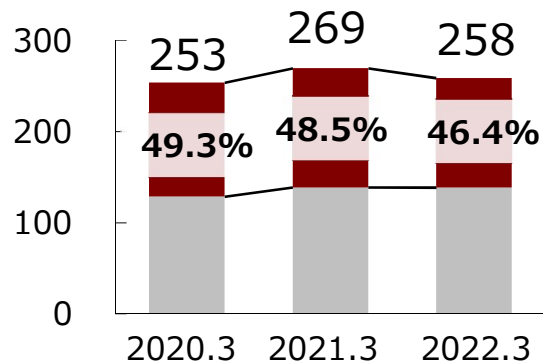
『プチッうどん』が具入りタイプを
中心に好調に推移



〔参考資料〕 市場規模と当社シェア

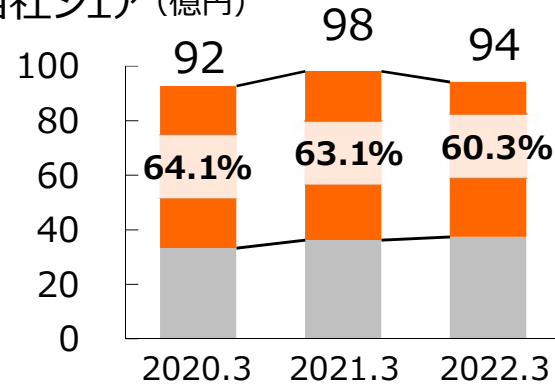
焼肉のたれ

■ 当社シェア (億円)



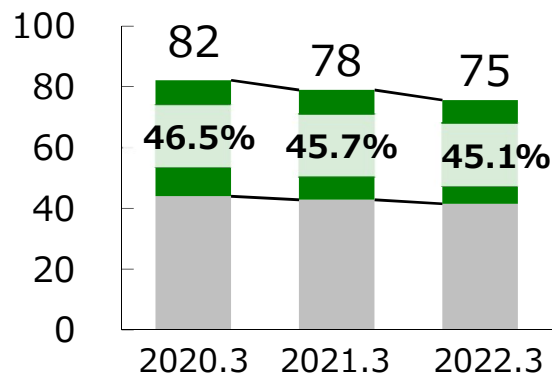
すき焼のたれ

■ 当社シェア (億円)



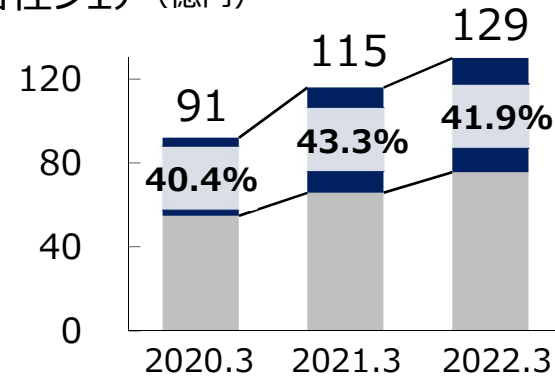
浅漬けの素

■ 当社シェア (億円)



プチッと鍋(個食鍋)

■ 当社シェア (億円)



出典：インテージ SRI+ 焼肉のたれ・すき焼きのたれ・浅漬けの素市場
 インテージ SRI+ つゆ・煮物の素市場 (1個当たり食数：個食 1~2 食含む)
 (2019年4月~2022年3月 累計販売金額・金額シェア)

〔参考資料〕 会社概要

商号	エバラ食品工業株式会社
本店所在地	横浜市西区みなとみらい四丁目4番5号
代表者	代表取締役社長 森村 剛士
事業内容	調味料食品の製造販売
資本金	13億8,713万円
設立	1958年（昭和33年）5月
従業員数	【連結】707名 【単体】522名（2022年3月末時点）
連結子会社	株式会社 エバラビジネス・マネジメント 株式会社 横浜エージェンシー&コミュニケーションズ 株式会社 エバラ物流 荏原食品（上海）有限公司 荏原食品香港有限公司 台湾荏原食品股份有限公司 EBARA SINGAPORE PTE. LTD. EBARA FOODS (THAILAND) CO., LTD. EBARA FOODS MALAYSIA SDN.BHD.

〔参考資料〕 沿革①

1958年	5月	荏原食品株式会社 設立
1968年	1月	『札幌ラーメンの素（味噌スープ）』発売
	3月	『焼肉のたれ・朝鮮風』発売
	7月	エバラ食品工業株式会社に商号変更
1970年	4月	テレビCM 開始
1978年	6月	『黄金の味』発売、テレビCMを全国一斉放映
1980年	7月	群馬工場（群馬県伊勢崎市）稼働
1984年	4月	栃木工場（栃木県さくら市）稼働
	11月	宣伝部門を独立 株式会社横浜エージェンシーを設立
1990年	5月	株式会社エバラ物流を設立
1994年	4月	津山工場（岡山県津山市）稼働
2003年	11月	日本証券業協会に株式を店頭登録
2004年	9月	株式会社サンリバティー横浜（人材派遣業）を子会社化
	12月	ジャスダック証券取引所（当時）に株式を上場
2005年	4月	荏原食品（上海）有限公司を設立
2011年	6月	チルド事業に関する合併会社 株式会社エバラCJフレッシュフーズを設立
2012年	11月	荏原食品香港有限公司を設立
2013年	11月	東京証券取引所市場第二部に市場変更
2014年	4月	株式会社横浜エージェンシーが株式会社サンリバティー横浜を吸収合併
	5月	株式会社横浜エージェンシーが株式会社横浜エージェンシー＆コミュニケーションズに商号変更
	5月	本社を横浜市西区みなとみらい四丁目に移転
	12月	東京証券取引所市場第一部に指定

〔参考資料〕 沿革②

2015年	3月	荏原食品香港有限公司 シンガポール支店を設立
2017年	1月	台湾荏原食品股份有限公司を設立
2018年	8月	EBARA SINGAPORE PTE. LTD.を設立
2021年	6月	EBARA FOODS (THAILAND) CO., LTD.を設立
2021年	10月	合併会社 株式会社エバラCJフレッシュフーズの全株式を譲渡
2022年	4月	株式会社エバラビジネス・マネジメントを設立
2022年	5月	ヤマキン株式会社の株式を取得
2022年	5月	EBARA FOODS MALAYSIA SDN.BHD.を設立

免責事項

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- 主要市場における景気動向
- 為替動向、金利変動
- 資本市場の動向
- 価格競争の激化
- 調達環境の変化
- 提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- 公的規制、政策、税務に関するリスク
- 製品、サービスの欠陥や瑕疵に関するリスク
- 研究開発投資、設備投資、事業買収・事業再編等に関するリスク
- 自然災害や突発的事象発生に関するリスク
- 会計方針の変更

こころ、はずむ、おいしさ。

エバラ

※ この資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記載は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

※ 本資料の金額は単位未満切捨で表示しております。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

● お問い合わせ先：コミュニケーション部（TEL 045-226-0240）